

いごいのみぎわ

天路歷程 ジョン・パニヤン

第11話

2022年1月30日～2月5日 各家庭でのディボーション用テキスト

基督者 でも、ほむべき者の子は非常に憐れみ深い方ですよ。

男 私はみずから新たに彼を十字架に釘づけたのです。【ヘブ6:6】私は彼の人格をないがしろにしました。【ルカ19:14】私は彼の義を侮りました。私は彼の血を汚れたものとし、恵みのみ霊を侮りました。【ヘブ10:28、29】だから私は一切の約束から自分を閉め出しました。今残っているものと言ってはただおびやかしかけだけです。恐ろしいおびやかし、必ず来るさばきと、火のような憤怒とのすさまじいおびやかし、それは私を敵として滅ぼすでしょう。

基督者 何のためにこのような身の上になったのですか。

男 この世の欲情と快楽と利益とのためです。それらを享樂して、大いに喜ぼうと当時自分に約束しました。しかし今となっては、それらの一つ一つが私を噛み、焼くような痛みを与える虫のように私をむしばむのです。

基督者 ですが、今から悔いて立ち直すことはできないものでしょうか。

男 神は私に悔恨をお許しにならなかったのです。彼のみ言は私に少しも信仰の励ましを与えないのです。そればかりか、ご自身で私をこの鉄の檻に閉じこめられたのです。この世のすべての人も私を出すことはできません。ああ未来永劫！ 私は永劫に会わねばならぬ不幸とどうして取っ組み合ったらよいのでしょうか。

そのとき解説者は基督者に言った、この男の悲惨を心に銘じて、いつまでも君の戒めとしなさい。

基督者は言った、なるほどこれは恐ろしいものです。どうか私か目を覚まして慎み、この人のみじめさの原因を避けるよう祈るのを神が助けてくださるように。さあ、もう出かける時ではありませんか。

解説者 もう一つの物を見せるまでお待ちなさい。それからお出かけなさるがよい。

そこで彼は再び基督者の手をとって、ある部屋へつれて行った。そこでは一人の人が寝床から起きようとしていたが、彼は衣服を着ながら震えおののいた。その時基督者は言った、なぜこの人はこのようにおののくのですか。すると解説者は彼がそうする理由を話しなさいと言った。そこで彼は話を始めた、今夜私が眠っているときに夢を見ましたが、何と、天は非常に暗くなり、また大へんすさまじく雷鳴と稲光とがして、そのために私は苦悶しました。それで夢の中で見上げると、雲が異常な速さで飛んだかを見ると、その上で大きなラッパの音が聞こえ【Iコリ15:52、Iテサ4:16】、また一人が雲上に坐り、天の聖徒たち数千を従えているのが見えました。彼らはみな炎々と燃える火の中にいて、天もまた燃える焰の上にあります。その時一つの声が聞こえて、次のように言いました、「死せる者たちよ、起き上がってさばきを受けよ」。それと共に岩は裂け、墓は開いて、その中にいた

死人たちが出て来ました。彼らの中には非常に喜んで上を仰ぐ者もあり、また山の下に身を隠そうとする者もありました。その時私は雲の上に座しておられる方が書物を開いて、世の人々に近よれと命じるのを見ました。【ユダ 14、Ⅱテサ 1:8、ヨハ 5:28、黙 20:11-14、イザ 26:21、ミカ 7:16-17、詩 50:1-3、ダニ 7:10】しかし彼の前から発してくるものすごい焰のために、彼と人々との間には、ちょうど法廷における裁判官と囚人たちとの間にあるような頃合のへだたりがありました。【マラ 3:2-3、ダニ 7:9-10】また雲の上に座しておられる方に従う人々にお触れが出るのを聞きました。「毒麦ともみがらと刈株とをいっしょに集めて燃える火の湖に投げ入れよ」。【マタ 3:12、13:30、マラ 4:1】それと共にちょうど私が立っていた所に底なしの穴が開いて、その口から煙と燃えさかる炭火とが恐ろしい音を立てておびただしく出て来ました。また同じ人々に、「わが麦を倉に納めよ」と言われました。【ルカ 3:17】それと共に多くの人々が挙げられて雲の中に運び去られるのを見ましたが、私は後に残されました。【Ⅰテサ 4:16-17】私はまた身を隠そうとしましたが、できませんでした。と言うのは雲の上に座しておられる方がいつも私に目を注いでいたからです。また私の罪が心に浮かんで来て、良心は四方八方から私を責めました。【ロマ 2:14-15】この時私は眠りから覚めたのです。

基督者 それにしても、あなたがこの光景をそんなに恐ろしがったのはどうしてですか。

男 いや、私はさばきの日が来ているのにその備えがしてないと思ったからです。ですが、私を最もびっくりさせたことは、天使たちが数名の者を集めて行ったのに私を後に残し、それにまた地獄がちょうど私の立っていた所に口を開いたことです。私の良心もまた私を苦しめました。そしてさばき主がみ顔にいきどおりを表わして絶えず私を見つめていました。

その時解説者は基督者に言った、あなたはこれらのことをすっかり考えてみましたか。

基督者 はい、それによって希望と恐怖とを起こしました。

解説者 よろしい。そのことをすっかり心に留めておきなさい。脇腹のとげのように、君をちくちく刺しては、君の行くべき道を進ませるようにね。

そこで基督者は腰の帯をしめ直して旅の身仕度を始めた。その時解説者は言った、基督者さん、どうか慰め主が絶えず君と共にいまして、都に通ずる道において君の導き手となりますように。

そこで基督者は次のように言いながら進んで行った。

ここで私は見た、珍しいもの、益あるもの、
楽しいもの、恐ろしいもの、また
手を着けたことに志を貫き通させるもの。
では、それらを考え、その示すわけを悟って、
ああ、解説者さん、あなたに感謝いたしましょう。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】